

古着支援プロジェクト

わかちあいプロジェクトでは、年に1度、開発途上国の人々へ衣類を送る古着支援プロジェクトを実施しています。「気がついたら家にたくさん服が眠っていた…」「もう着なくなった服があるけれど、捨てるのはもったいない!」そんな方は、ぜひ私たちの支援活動にご協力ください。わかちあいプロジェクトが代わって皆さまの衣類を、世界で必要としている人へと届けます。

第29回 2021年度古着募集要項

募集期間

2021年7月1日(木)～7月10日(土)

※この期間に必ず到着するようにお送りください。

支援先

南スーダンのNGOを通して、自然災害の被災者や、地域で必要としている人たちに配布いたします。

古着の種類

Tシャツ、Yシャツ、トレーナー、ジャージ、ズボン、スカート、ジーンズ、背広・スーツ、カーディガン、セーター（ウール可）、コート（ダウン可）、学校ジャージ、会社の作業着、ユニフォームなど、会社の作業服、学校などで使用したジャージ類歓迎、靴もOK!

※受付不可なもの：上記の中でシミ、汚れ、破れ、穴、ほつれのある服や着古して劣化した服。靴下、下着、和服、毛皮、柔道着、学ラン、過度の装飾のある服や機能的でない服。ベルト、ネクタイ、帽子、ハンカチ、ぬいぐるみ、バッグなどの衣服に該当しないもの。シーツ、毛布、布団など衣服に該当しないもの。

送付方法・送り先

衣類を段ボール（サイズの上限＝縦・横・高さの合計が160cm以内）に入れて、以下の宛先までお送りください。（宅配業者の指定はありません）

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦2-8-6
株式会社エコムナ横浜工場「わかちあいプロジェクト係」
Tel.045-701-6263

※配送にかかる送料をご負担ください。

※募集期間中、営業時間内の直接上記住所への持ち込みも可
（営業時間：平日 午前9時～11時30分／午後1時～4時）

※倉庫では荷物の引き取りのみで、現金による募金の受付や問い合わせ対応はいたしません。

※古着に関するお問い合わせは、わかちあいプロジェクト（Tel. 03-3634-7809）まで

募金方法・注意点

日本から現地までの中古コンテナ購入代、海外輸送費、梱包代、現地での輸送費などに使わせていただきます。
古着1箱あたり、2,000円の募金を送金お願いします。

※募金は衣類に同梱しないようお願いいたします。

※古着だけの送付は受け付けていません。

※募金は衣類発送前または発送後2週間以内をお願いいたします。

郵便振替口座 一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390
通信欄に「古着募金」と記入

クレジットカード

当団体HPよりカード決済が可能です。

➡<https://www.wakachiai.com/cloths/>
アクセスし、「募金ページへ」をクリック



現地受入団体

南スーダンのNGO,Valentino Foundation&Peace Palettes

募金のご協力をお願いします

- ① 一般募金（わかちあいプロジェクトの活動全般をサポート）
- ② 古着支援募金（難民古着支援プロジェクト活動費等）
- ③ 難民支援募金
- ④ ミャンマー奨学金募金
- ⑤ 南スーダン支援募金（Peace Palette 活動支援）

募金の送付先 郵便振替口座NEWS4ページ

一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390

（※通信欄に上記募金の種類をご記入ください）

わかちあいプロジェクトNEWS No.36

2021 April（年1回発行）

編集 一般社団法人わかちあいプロジェクト

デザイン Design Convivia

発行元 一般社団法人わかちあいプロジェクト
135-0001 東京都江東区毛利2-2-8誠和ビル
TEL：03-3634-7809 FAX：03-3634-7808



わかちあいプロジェクト

SDGsとフェアトレード

松木 傑 わかちあいプロジェクト代表

最近、SDGs、SDGsと盛んに取り上げられています。

2015年9月、国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、2016年から2030年までの国際目標として、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」が掲げられました。地球上で誰一人として取り残さないこと（leave no one behind）を誓い、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）な目標として、政府や企業も積極的に取り組んでいます。

これを受けて、国際フェアトレードラベル機構(Fairtrade International)は、2016年3月に欧州委員会の戦略的パートナーに選出され、欧州各国におけるSDGs達成に寄与しています。国際フェアトレード認証は、下の8つの目標達成に大きく寄与するものとして、国際機関や多くの企業からの注目を集めています。現在、世界のラベル商品の推定小売額は、1兆3000億円までになっています。

なるほどフェアトレードも関係あるのだと認識されたと思います。

わかちあいプロジェクトは、1993年日本で最初のフェアトレードラベルコーヒーの発売を開始して以来、アジア、ア

わかちあいプロジェクトNEWS No.36

2021 April



フリカ、中南米など世界の国々の生産者が育てたコーヒー、紅茶、はちみつなどの商品を直接輸入して、日本で販売しています。その過程では、国際フェアトレードラベル機構の「フェアトレード基準」を守り、途上国の生産者または輸出組織との間で、公平な取引関係を結んでいます。

フェアトレードの目的は、世界に貧困を蔓延させている原因を取り除き、立場の弱い途上国の人々が自立した生活を送れるようになることにあります。裕福な人がより裕福に、貧しい人がより貧しくなるといった、不公平な社会システムを無くし、誰もが人間らしい生活ができる世界を目指しています。

なぜフェアトレードに取り組むの

地球温暖化や異常気象などの原因と考えられる、二酸化炭素の排出量の削減は、すべての人々、企業、自治体などが一致して取り組むべき緊急の課題となっています。やりたいた人がやればよいという問題ではありません。それと同じように、世界に広がる貧富の差は、同じ地球に住む私たちの緊急の課題です。情報が、世界の隅々に一瞬に配信されるなかで、努力しても貧しさから抜けられない途上国の人たちの現実があります。

現在の世界の混乱状態は、この不公平さが要因と考えられます。単に途上国を支援するという発想を超え、私たちの存続にもかかわっています。このような状況において、フェアトレードは、貧困問題を世界共通の課題と認識し、誰もが参加することができる、身近な貧困解決に向けた取り組みです。フェアトレードは、消費者一人ひとりが自分の気に入った商品を購入することでできる、身近な国際協力のかたちです。この方法なら、負担なく、無理なく継続的に国際協力に参加できます。

ぜひ、フェアトレードに参加、ご協力ください。

わかちあいプロジェクトについて

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪問した際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー（カフェ・マム）の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につなげています。また同じ頃、アフリカ・ソマリア難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

- ① 国際フェアトレード認証製品の輸入、商品開発、販売
- ② 難民支援活動（古着支援、緊急支援）
- ③ 途上国の自立支援



わかちあいプロジェクトの
フェアトレードオンラインショップ
「Fair Select（フェアセレクト）」

お買い物で途上国の生産者の自立を支える
フェアトレードをぜひご利用ください。

フェアセレクト

検索



南スーダンでの平和構築活動について

小野 綾 Peace Palette・共同設立者



5つ以上の多民族が集まるスポーツとダンスを通した平和構築プロジェクトのワンシーン

わかちあいプロジェクトが支援する南スーダンのPeace Paletteという団体の共同設立者の一人、David Nyuol Vincentは当時のスーダン南部で8歳にして少年兵になりました。銃を持ち強くなるのが成人への通過儀礼だと信じ、紛争の目的も知らぬままひたすら戦場の最前線を目指し生き抜いたのです。Davidは少年兵であったと同時に難民でもありました。激化する戦場から逃れるために3か月かけてサハラ砂漠を越え、エチオピアのPinyudo難民キャンプに命辛々辿り着き、そこで幾度もの紛争を生き抜き、最終的にカクマ難民キャンプへ到達し13年の時を過ごしました。難民キャンプという檻で生きた13年間で、彼はNoriakiという希望に出会いました。

Noriakiは90年代に、わかちあいプロジェクトがカクマ難民キャンプへ送った、青年難民のためのプロジェクトスタッフでした。DavidはNoriakiを“Light at the end of the tunnel（トンネルの出口に見える一条の光）”と表現し、難民キャンプにいる惨めな自分を初めて同じ人間として扱ってくれたと話します。スポーツなどにおける青年難民の能力を見出し難民キャンプからはるか彼方へ希望を持たせてくれるNoriakiをDavidは心から尊敬し、少年兵時代の傷を癒しながら交流を深めました。DavidはNoriakiが「スタッフ」という立場であることを忘れる

くらい親しい友人として慕っていました。しかし突然の交通事故が、希望の灯だったNoriakiを奪い、彼は帰らぬ人となったのです。希望を失ったDavidでしたが、そこで初めてわかちあいプロジェクトの存在を知りました。日本という国があり、日本のわかちあいプロジェクトという団体があるということ。Noriakiはそこから来たのだと改めて知ったのです。その数年後にオーストラリアでの難民ビザを獲得し、志半ばで旅立った故高村憲明氏の遺志を必ず継ぐと誓い、Davidは13年過ごしたカクマ難民キャンプを後にしました。

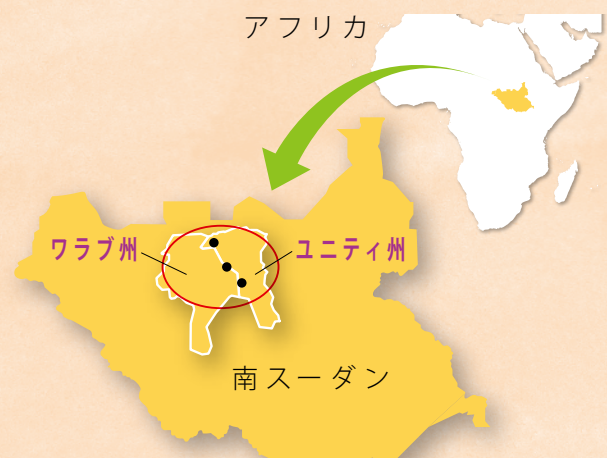
Davidは再定住したオーストラリアで、人生で二回目に日本人に出会います。奇跡的にもその日本人と深い友情で結ばれ、亡き友人が落としたバトンを拾い、二人で遺志を継ぐ決心をしました。それが2012年、「平和の色を提供するパレットになる」Peace Paletteの誕生です。同年、初の来日となるDavidを連れて私たちは、北海道の夢を語るチャリティーフォーラムをはじめとし、東京のわかちあいプロジェクト事務所を訪れ、Noriakiへの失せぬ思い、Peace Paletteの平和構築のビジョンを伝え、協力を呼び掛けました。

それ以降約九年間、わかちあいプロジェクトには毎年継続的に欠かせない指針と「志金」を頂き、更に共同運営とい

う形でご支援を頂いています。そのおかげで二人で始めた草の根団体であるPeace Paletteが小さいながらも、ホームレス児童保護、穀物粉碎機や地域農業などの社会的事業、そして民族対立や貧困からの家畜略奪が多発する地域においてスポーツを通した平和構築活動などを展開し、南スーダンの新たな土壤になってきています。今日も私たちが針路を保つのは、まさに「分かち合い」協働させて頂いているからです。

Peace Paletteは今後更にわかちあいプロジェクトと協働を深め、新たな活動へ足を踏み入れる予定です。民族対立と家畜の略奪が頻発するUnity州とWarrap州境で、家畜主、対立する民族や政府を交えた平和構築の「対話」を通した和解への道。スポーツと文化を通した平和構築の活動。そして念願のNoriaki多目的センターを建設し、その場を木工芸品や家具製作所としても展開させ、フェアトレード、フェア市場を築き上げ、平和村モデルの構築を目指しています。

わかちあいプロジェクトが専門とするフェアトレードと自立支援に加えて、Peace Paletteがしてきた平和構築の相乗効果を生み、更に平和の色を加えたい。パレットにはいつだって絵の具という材料がないと役目を果たせません。あなたの色を加え、私たちと一緒に平和を彩りませんか。



2020年古着支援報告

昨年11月、南スーダンを襲った洪水の被災者に古着が支援されました。

古着支援へのご協力ありがとうございます。

2020年は、4756箱の寄付をいただき、40フィートコンテナ5本を南スーダンに送ることができました。

古着の受け入れ先が段々難しくなっています。一昨年まで継続して受け入れてくれていたタンザニアの難民キャンプは、タンザニア政府が人道支援の古着にも税金をかけるという方針になり中断いたしました。去年は元々は、ウガンダの南スーダン人難民への支援を計画していましたが、受け入れの条件についてウガンダ政府機関と合意でき

ず、南スーダン国内の2つのNGOに送ることができました。コロナのために海上運賃が高騰し、また国内で運ぶ資金が不足して一部のコンテナはまだ首都の



ジュバに止めおいた状態です。何とか今年は皆様の募金によってすべての支給ができるようにしたいと思います。



南スーダンの受入団体：Valentino Foundation、2001年当時、わかちあいプロジェクトのカクマ難民スタッフであった、Valentinoがアメリカに移住し、立ち上げたNGOで南スーダンで、中学校、高校を運営しています。Peace Palette、2001年当時、わかちあいプロジェクトのカクマ難民のサッカーチームのキャプテンであったDavidがオーストラリアに移住して設立したNGO

ミャンマー教育支援報告

ミヤ・リー カヤ・バプテスト教会

カヤー州の学生の奨学金といくつかの活動について報告します。

2020年の奨学金プログラムで合計19人の学生、男子8人、女子11人を支援しました。

その中で、2020年に2人の学生が大学入学試験に合格しました。

このパンデミックの時期にもかかわらず、音楽トレーニングやライブスキルプログラムなど、孤児院の子供たちを励ます活動も行うことができました。

ミャンマーでは、2020年以降、3月はコロナウイルスによるパンデミックの影響を受け、すべての学校と大学、高校、幼稚園などは閉鎖されています。多くの人々が経済、教育、政治、社会、そして特に健康の問題に直面してきま



した。

私たちの組織には、コロナ救済プログラムのためのいくつかの活動があり、マスク、石鹸、食品、手洗い洗面器などを提供しました。もう一つの問題は、自然災害がカヤー州の多くの村に影響を及ぼしていることです。2020年12月から現在まで水不足に直面しています。私たちのグループである愛の分かち合いは、水不足に直面した人々に毎日水を提供しています。

残念ながら、2021年2月1日、私たちは国の政治的紛争問題のために希望と未来を失いました。人々は毎日通り

に出て、人々を攻撃する軍事クーデターに抗議しています。

彼らはビジネス、教育、政治、社会、そして健康プログラムを削減しました。通信、インターネット、フェイスブック、電話、電気もカットしました。すべての銀行が閉鎖され、送金と引き出しができませんでした。今は収入がないので、どうやって毎日の食べ物を集めるのか心配です。

2020年には、パンデミックのため、会議を開くことができず、奨学生との集合写真を撮ることができませんでした。